

独自サービスで横浜をPR

全日空が羽田―
フランクフルト便

地元銘菓を提供

全日空は、羽田空港からドイツ・フランクフルト市へ直行便が21日に就航するのを記念し、横浜銘菓のマロン

ケーキ「ありあけ・横浜ハーバー」を機内で提供する。同市と横浜

市が昨年、パートナー都市協定を結んだことがきっかけで実現し、11日に市役所で記者会見があった。

直行便は「華国産」として注目を集めるボーイング787を使用し、月内は週3便、2月から毎日運行する。3月末までフランクフルト

ルト発羽田行き機内飲食コーナーに1便30個程度を置き、自由に取ってもらう。

会見に出席した全日空の長瀬真副社長は「海外から戻る人がほっとするのに日本のお菓子や食事が効果的」と期待を寄せた。

横浜ハーバー約1000個を無償提供する

「ありあけ」（横浜市港北区）の堀越隆宏社長は「記念すべき時のお祝いに提供できてうれしい」と話した。

パッケージには、両市の協定を記念したシールを貼り、機内誌には横浜の紹介を載せる予定で、市は国内外の乗客に魅力をPRできると期待している。

【杉壁水脈】



会見後に横浜ハーバーを手にする（左から）堀越社長、林文字市長、長瀬副社長